

Sports Net

ちば 2019年5月号

New Japan Sports Federation in Chiba Prefecture
2019年5月1日

「スポーツは平和とともに」
新日本スポーツ連盟千葉県連盟
〒263-0024 千葉市稲毛区穴川3-1-17
Tel 043-287-7353 Fax 043-256-1454
URL <http://njsf-chiba.perma.jp>
E-mail njsf1970chiba@gmail.com
発行人 園川 峰紀
通巻 205号

全国大会出場権をかけた新旧激突! REVERSIBLE・BURSTの2チームが全国大会へ!

第55回千葉県スポーツ祭典のトップを飾る「第16回ミックスバレー印西市大会」が4月14日（日）印西市・松山下公園体育館メインアリーナで開催されました。

今回は募集開始後1ヶ月あまりで12チームの募集枠が埋まりました。参加チームは全国大参加実績のあるROUGE・BURST・八街排球クラブ・GOZILAの4チーム、常連チームのスプリングワン・サテイスファクスジョン・Sophia・REVERSIBLE・習志野市役所の5チーム、チーム名を変えて参加のReborn・Spicaの2チーム、初見参の今半という構成。



1時間を超える
八街排球クラブ
vs
REVERSIBLE
熱い戦い!

午前中は、3チームずつ四つのグループに別れ25点2セット先取で予選リーグ12試合を実施。順調に試合が進んでいる中でアクシデント発生。Aコートで試合中の女子選手が膝を抱えてうずくまる。確認するとどうやら左足の膝靭帯が故障箇所らしい。事務室から氷を守り一先ず冷やすことに。しかしながら大事をとって同チームはやむなくその後の試合を棄権することとなりました。

12時半過ぎ頃、予選リーグ戦が終了。1位トーナメント戦にはいずれも実力が拮抗した4チーム（八街排球クラブ・REVERSIBLE・BURST・習志野市役所）が勝ち残りしました。2位トーナメント戦には全国大会出場経験をもつ2チーム（ROUGE・GOZILA）とリニューアルチーム（Reborn）と常連チームスプリングワンがそれ

ぞれ進みました。残る3チーム（今半・サテイスファクスジョン・Spica）は、トーナメント戦から3チーム総当たりによるリーグ戦に切り替えて行いました。

全国大会出場をかけた1位トーナメント戦はどの試合の手に汗を握る展開。なかでも1時間を超える熱戦を展開した「八街排球クラブ」と「REVERSIBLE」戦はお互い譲らず1対1で迎えた3セット目は7回に及ぶジュースを繰り返しどちらが勝ってもいい試合でした。しかし、このところ上り調子にある「REVERSIBLE」に軍配が上がりました。引き続き決勝戦はここでも自力をつけてきた「REVERSIBLE」が「BURST」を2-0で下し優勝の栄冠に輝きました。

今回で16回目を数える大会ですが年々参加するチームのレベルも向上。年末に愛知県・一宮市で開催される全国大会でもきっと素晴らしい活躍を見せてくれるものと期待が膨らんでいます。

上位3チームの結果は次のとおり



優勝 Reversible
(左)



準優勝 BURST
(下)

3位
八街排球クラブ

悠久の歴史と春の風

上総国分寺・国分尼寺・高滝湖ウォーキング近市原

今回はチラシ見ての初参加者を加え、14名で出発。

「悠久の歴史と春の風を感じるウォーキング」と題し計画しました。



まずは史跡上総国分寺・上総国分尼寺の散策から。上総国分寺跡は茅葺の本堂をはじめ現在

も国分寺が続いていて境内に立つと2000年前にタイムスリップしたように感じる不思議な雰囲気を感じ出していました。

続いて近くにある「上総国分尼寺」に向かいました。ここには、「史跡国分尼寺跡展示館」があり中門・回廊が復元されています。



朱の染料は当時のものと同じものを使い、建造物も当時と同じ工法で建立してありました。



上総国分寺・上総国分尼寺は今から千二百五十年前の奈良時代中期に建てられました。国分寺は国の平和と繁栄を祈るため

に、全国六十か所余り建てられた国立寺院です。

国分寺が創建された天平年間には、異常現象が続き、天候が不順で作物が実らず、人々は飢えや疫病に苦しんでいました。聖武天皇と光明皇后は、こうした社会不安や政治の混乱を仏教の力で鎮めようと国分寺を建立しました。

上総国分尼寺は東京ドーム3個分の広さあり、現在はドーム1個分が発掘されているとのこと。当時の権力者の凄さを感じさせられました。

たっぷり歴史を堪能した後第2の目的地「高滝湖」へ向かいました。

高滝湖は千葉県最大の貯水面積を誇るダム湖で1周5km。



お弁当を食べてから美術館見学と散策組とウォーキング組に分かれて歩きました。心地よい一日を過ごすことができ満足満足。

(日野正生・記)

南房総いいとこ取り びわ狩りと大房岬

6月6日(木)、神奈川ウォーキング協議会と合同で南房総を舞台にびわ狩りと大房岬自然公園を訪ねるウォーキングを開催します。

詳しくは、ウォーキング協議会ホームページをご覧ください。



和やかな雰囲気 それでいて激しいラリーの展開

春季バドミントン大会に37チームが集う

バドミントン協議会（準）恒例の春季バドミントン大会・混合団体戦は3月30日（土）千葉県総合スポーツセンター・体育館にて開催されました。

去年は48チームの参加で夜遅くまでかかりましたが、今年は高校生チームの参加が無かった事もあり37チームと選手からも運営する側からも丁度良い規模の大会となりました。

今回も東京から13クラブ14チーム、神奈川から1チーム、埼玉から2チーム、茨城からも1チームと県外からの参加も目立ちました。

9時からの試合開始に合わせて、7時に開場したのですが県北の我孫子から参加の荒木△とΩチームが開場前に到着。積極的にコート作りを手伝って下さり感謝！ お陰で受付も早めに済ませ開会式そして試合開始を待つばかりとなりました。事前に各チームにプログラムを郵送してあるため12コートほぼ同時に試合が始まりました。

試合形式は女子ダブルス、男子ダブルス、混合ダブルス。1部を除き2部と3部は3～4チームのリーグ戦。勝っても負けても3試合を行いました。

21ポイントで試合を進めましたが、1時間もかからずに終了する試合もあれば2コートの1部の『メインは飲み会』対『イナニ』の様に1時間40分かかる試合もあり進行係が忙しくなる場面がありました。

しかし、今回運営に携わって下さった『ハーモニー』の皆さんのチームワークによりリーグ戦後のトーナメント戦への移行もスムーズでした。特に女性アナウンサーの声が適度の音量と歯切れ良さの為、選手も落ち着いて試合に集中する事が出来ました。

埼玉から参加のNexus伊藤さんからは「試合数も多いのに進行を円滑に進めてくれたおかげで早く終わることができました」との感想を頂

きました。

また松戸ファミリーの藤原さんからは「非常に賑やかな大会でした。色々なレベルの人が出ているので勉強になった一日でした」とのコメントもありました。

ただ、当日の朝、体育館が冷えていた事もあり、シャトルの傷みが早く選手から「一度使用したシャトルを直して使うとは！」「シャトルはヨネックスの検定球を使用して欲しい！」との要望が相次ぎ、次回からの課題となりました。

試合結果は以下の通りでした。2～3部は1位トーナメントの結果

1部（5チーム）

優勝 イナニ

準優勝 きのこ王国



優勝した
チーム イナニ
のみなさん

2部（12チーム）

優勝 明治学院大学

準優勝 ゆるミントン

2部優勝の
明治学院大学
のみなさん



3部（20チーム）

優勝 射翔流' S

準優勝 うえすたん

常任理事会報告

4月18日（木）県連盟事務所で第2回の常任理事会が開催されました。

会議前半の報告関係では、各協議会の大会の進行状況に加え、以下の内容について話し合いが持たれました。

- ・事務所の改装に伴い、荷物置き場が減少したというクレームがテニス協議会から寄せられた事。
→テニス協議会の意見も聞きながら、ある程度のスペースを確保する。
- ・新たに購入したパソコンの立ち上がり速度が遅い
→ソフトの調整をしながら様子を見るが、場合によってはCPUの交換も視野に入れる。
- ・ホームページのリニューアルはある程度完了したが、コンテンツが圧倒的に少ないので、各協議会から記事等を寄せてもらうように働きかける。
検索エンジンにヒットできるようになっていないので、早急に対応する。

報告に続き、以下の内容について協議・討議が行われました。

- ・各協議会との懇談について

5月14日（火）19時から連盟事務所で開催する予定、第1回目は「野球」「卓球」「テニス」の3協議会に案内をした。

平日の夜という日程について「働いている人間には厳しい」との意見もあった。

- ・スポーツ祭典の表彰状の表現方法について、「長すぎる」「上から目線」などの意見もあった事から、今後見直す。

- ・スポーツ祭典のチラシ発送を5月2日13時から連盟事務所で行うので、参加できる役員は是非に

- ・2020年11月7日を目安に千葉県連盟の50周年記念行事を行う。

40周年は50人規模で後援と軽食によるレセプション開催だった。

- ・次期総会に向けて規約の改正（役員の任期等）を行う準備をする。

- ・SportsNetちばの原稿は4月25日までにあげてもらう。

- ・スポーツのひろば代金未回収の団体について、機関紙交換という形で、代金を頂かない。

スポーツアラカルト

NLBは3月29日、セパ両リーグ同時開幕した。

セリーグは昨年の覇者広島が5連続カード負け越し7カードで目で初めて勝ち越し最下位を脱した。田中・菊池の1・2番コンビが機能していないことが大きい。やはり丸選手の抜けた穴は大きいのか？投打に精彩を欠き、広島らしい守って勝つ野球ができていない。投手はコントロールミスで自滅し打者はボール球を打ちに行っている。繋ぐ意識が希薄で緻密な野球が影を潜めている。

原巨人は開幕カードをエースの菅野で落としたが2戦目からは投打がかみ合い開幕ダッシュに成功しているのではないのか？それ以上にヤクルトは投手陣が踏ん張り打撃が好調である。

阪神は巨人に開幕6連敗し広島に代わり最下位に甘んじている。いつになったら目覚めるのか、阪神が調子を取り戻さないとセリーグの魅力は半減する。

パリーグは昨年の覇者西武打線が鳴りを潜め低迷し、楽天が投打がかみ合い好調な滑り出し

を見せている。地元ロッテは投打がかみ合わず例年同様苦しい戦いが続いている。投手陣の踏ん張りが今後を左右するのではないのか？

MLBでは菊池投手が挑戦しているがスロースターターのためなかなか勝利に結びつく投球ができていない。田中・前田投手は実績通りの投球ができていように見える。ダルビッシュ投手は故障あがりのためか精彩を欠いている。打者としての大谷選手も手術の影響で出遅れている。

千葉県野球協議会のリーグ戦は3月10日に開幕し、雨による影響もなく順調に進行している。相変わらず千葉市内のグラウンド確保が困難でチームの奮闘により長南町・長生村・睦沢町など遠方になるがグラウンドを確保し試合を行っているところである。

また、今年度は野球協議会独自のHPを開設し、試合結果をリアルタイムに掲載し好評を得ている。

しかし、記録の不備もあり、正確な記録の取り方が課題となっている。

クラブ紹介

ダブル

バドミントン



- ① **クラブ (チーム) 名** ダブル
- ② **代表者** 中原 菜摘



③ チームの概要

(名前の由来・チームの特徴・練習日程・人数等)

習志野市にある大学のバドミントン部 (体育会) のOB・OGで集まって活動している部活仲間のクラブです。

年齢は23才～25才。平均年齢24才と言ったところ。

今人気のカードゲーム「ダブル」からチーム名を付けました。試合の合間にダブルで遊んでいるからです。

部員は現在 15 名程度。普段は仕事がありクラブとしての決まった会場での練習は出来ないなので試合の時に集まり楽しんでいます。

他のチームに登録している人もいますが、スポーツ連盟の大会にはダブルと言うチーム名で出場しています。

主に県内の試合に出場していますが、東京の新日本スポーツ連盟の試合に出場している部員もいます。

④ クラブのアピール

学生時代に練習していた仲間なので、和気藹々と活動しています。

⑤ その他 (スポーツ連盟に期待することなど)

3月30日の試合は2部と3部に出場。

両チームとも2位トーナメントで優勝しました。

沢山試合ができ、大変楽しかったです。都合がつけば、また参加したいです。

第19回千葉反核・平和マラソン

日 時：2019年7月21日 (日) 雨天決行
 集合時間：午前9時45分 (スタート10時)
 集合場所：千葉公園・綿打池藤棚下



反核平和を訴え、約10kmの道をゆっくり走ります。

3つの区間に分けたり、伴走車も用意し、走れない方でも参加できます。

大国の核競争が再燃しそうな今、平和の大切さを訴えましょう。

新日本スポーツ連盟のスローガンのひとつ「スポーツは平和と共に」を実践しましょう

SPORTS CALENDAR

5月

5月 1日 (水・休) 第12回なのはなテニス大会
5月 4日 (土) 混合3Wチームテニス大会
5月 5日 (日) 野球協議会リーグ戦
5月 6日 (月・休) サッカー協議会リーグ戦・開幕
春のバレーボールフェスティバル
第12回なのはなテニス大会
5月11日 (土) 第37回シニアテニス大会
春のバレーボールフェスティバル
5月12日 (日) 野球協議会リーグ戦
春のバレーボールフェスティバル
5月17日 (金) 月例ウォーキング
5月19日 (日) 千葉・青葉の森リレーマラソン
第37回シニアテニス大会
野球協議会リーグ戦
5月25日 (土) 第12回なのはなテニス大会
5月26日 (日) 野球協議会リーグ戦

6月

6月 1日 (土) 祭典・卓球大会 団体戦
6月 2日 (日) 野球協議会リーグ戦
第12回なのはなテニス大会
サッカー協議会リーグ戦
6月 8日 (土) 男女別2ペアチーム対抗テニス大会
6月 9日 (日) 野球協議会リーグ戦
6月13日 (木) 卓球教室
6月16日 (日) 野球協議会リーグ戦
6月21日 (金) 月例ウォーキング
6月22日 (土) 第12回なのはなテニス大会
6月23日 (日) 野球協議会リーグ戦
6月30日 (日) 野球協議会リーグ戦
混合2ペアチーム対抗テニス大会

「アスリートファースト」はどこに行ったの？

先日2020東京オリンピック組織委員会から総ての競技の日程が発表された。注目のマラソンは当初予定されていた午前7時から午前6時に繰り上げてスタート。併せて男子50km競歩も午前6時から午前5時半とこれまた超早朝！のスタートとなった。その他にもオープンウォーター・トライアスロン等早朝にスタートする競技がある。これはひとえに酷暑対策として選手への影響を考慮しての変更ということだが、観客・スタッフ等大会役員等の都合は考えているのか？筆者も市民マラソン大会に出場していた頃は通常10時頃スタートするのでいつもより少しくらい早く起きてスタートに備えていたものだが、エリート選手ともなればスタート4時間半前には起きて調整するという。午前6時スタートであれば午前2時前後には起床してスタートに備えなければならないことになる。このように選手にいつもと違った調整方法を強いることにもなる。東京大会の基本理念「すべてのアスリートが最高のパフォーマンスを発揮し自己ベストを記録できる大会を実現する」こととも矛盾する。

それ以上に問題なのは通常午後に行われる決勝を午前中にする日程。競泳・陸上など9種目が午前中から正午にかけて行われリオ五輪と比べると一つ増えるという。このような変則的な日程が組まれた背景には巨額の放映権料を払うアメリカテレビ局に配慮したIOCに意向が強く反映しているようだ。午前中に決勝が行われる競技には米国選手の活躍が見込まれることから米国のゴールデンタイムに合わせた時間帯となった次第。金儲けとなる放送を優先させ主役であるべき選手が活躍できる環境を整えるべきなのだが・・・。

東京大会は「アスリートファースト」である、とさんざん吹聴しているにもかかわらず、このような本末転用した論理がまかり通っている。名ばかりの「アスリートファースト」が続くことはオリンピック憲章にも劣る行為であると思えてならない。「アスリートファースト」の精神はどこに行ったのか？



理事長の独り言